



ほうさ 第30号

1987年4月

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hōsabunko

展 示 室 よ り

張州雑誌展

～百冊に描かれた近世の尾張～

I. 4.11(土)～5.13(水)
II. 5.16(土)～6.14(日)

「張州雑誌」100巻100冊、蓬左文庫が尾張藩の御文庫から受けついで貴重な文献の一つであり、近世の尾張を知る上でかけがえのない資料である。この中には、人々の労働する姿・祭礼の様子・山中の寺院や海岸の風景、山や海に生息する生物、寺社の宝物等々・尾張の国の様々な風俗・事物が、満載されている。

この膨大な書物を著した人物は、内藤浅右衛門正参、閑水・朽庵などの号を持ち、現在では、画業に使用した字の東甫でよく知られた人物である。東甫は、享保12年(1727)、五百石取の尾張藩士の家に生れ、寛保4年(1744)、御側小姓として出仕、御小納戸役、地廻りなどの職を経て、安永4年(1775)に隠居、天明8年(1788)61才でこの世を去っている。当時の教養人の常として、彼もまた俳諧、詩文、絵などを嗜んだが、東甫の場合は、一般教養にとどまらず、当時の尾張の文化人グループの一人として、横井也有等第一級の人物達と肩を並べ、とくに絵の方は、余技を遥かに越えて、職業的絵師としても通用する技倆を持っていた。俳諧・和歌・絵のほか著書も多く、様々な書物からの抜書を集めた「謾志」、絵や歌を楽しむ文化人グループの会合の記録「春興楽事」「張城尚歯会」、様々な階層の高齢者を集めて今と昔の身近な生活の違いを語らせた「手杵」等があるが、彼の生涯における最大の著作が、「張州雑誌」100巻100冊であることにはちがいない。

「張州雑誌」が現在の形にまとめられたのは、寛政元年(1789)、彼の死後のことである。彼の死については、病死という公式の記録のほかに、よからぬ噂も伝わっており、不明な点が多いが、いずれにしろ、突然の予期せぬ死であったことは確かであろう。彼が長年にわたって書きためたと思われる膨大な記録は、ある程度整理されてはいたものの、すでに清書を終えたもの、推敲・加筆の最中のもの、まだ資料収集途中のものなど様々で、彼の急死によって未完のままこの世に残されてしまった。このため、彼の生前の知己の手によって100巻100冊にまとめられ、目次を付された「張州雑誌」は、まもなく、藩に献上され、藩主専用の書庫に収められたまま、ほとんど一般の目にふれることなく明治維新を迎えたのである。

現在我々が目にする「張州雑誌」の構成は、巻1～19知多郡、巻20～23東照宮祭礼、巻24～58熱田、巻59～79津島、巻80～81甚目寺、巻82～86妙興寺、巻87明



内藤東甫像(「張城尚歯会」)

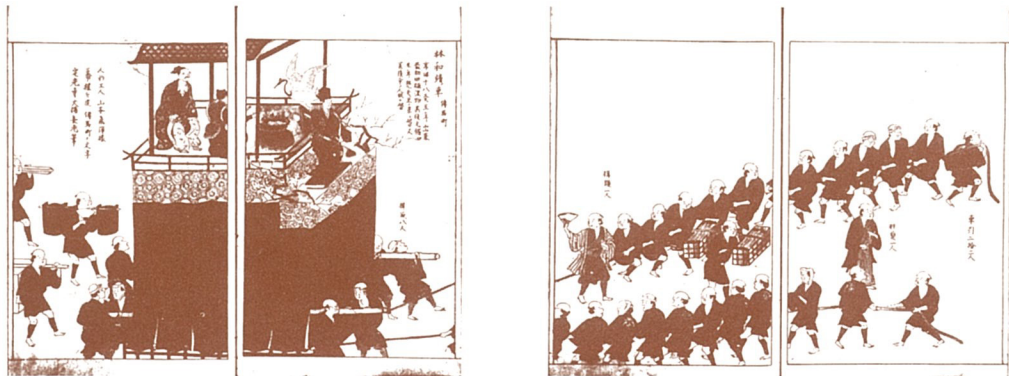
眼院、巻88～100春日井郡となっている。熱田・津島だけでもその半ばを越え、全体の約6割強を占める有名寺社とその周辺地域についての記述では、古今の文献から関連部分を網羅的に抜き出し、景観や年中行事などを描いた絵があれば、写して収録する。宝物を記録する場合には、文章に加え、絵によって、その色形を微細な点まで正確に描き、そのほか年中行事および周辺寺院や村落についても、旧記や彼自身の見聞の記述に、風俗、景観、産物などの絵を加えて記録、描写している。

全体の三分の一を占める知多郡・春日井郡の村々については、各村々の旧記にはじまって、神社仏閣、名所旧跡、年中行事、産物が記され、やはり彼自身の絵によって、当時の風景、地図、祭礼や労働など人々の生活の様子が写しとられているが、知多郡で2巻、春日井郡で4巻にまとめられた各郡の産物の部分は、他の地誌と呼ぶことのできる部分に比べ趣を異にした記述となっている。この点は、熱田や津島の産物にも共通する事で、産物つまりその地域の野山や海川に生息する草花、鳥、魚、獣などについては、彼の見聞に加え、本草学・博物学の書物からの引用を中心に記述されており、その挿絵には、後の図鑑などに見られるような、鳥の羽の1枚1枚、魚のうろこの数までも正確に写し取ろうとする細密な絵が付されている。これは、地誌というより、むしろ博物誌と呼ぶべきもので、当時の全国の本草学・博物学の流行の影響とともに、後年、全国的にもトップレベルに達する尾張本草学の先駆的存在である松平君山との交遊関係を見捨てることはできないであろう。ともあれ、これらに共通する視点は、宝物や生産用具を描写・記録する際にも見られ、「張州雑志」は、尾張の地誌としてだけでなく、博物誌としても位置づけられるのである。

残りの4巻にまとめられた東照宮の祭礼は、当時「御祭礼」と言えばこの祭を指したと言われる名古屋城下最大の祭礼の記録である。「張州雑志」が未完に終わった事によるものか、名古屋城下についての記述はこれだけである。名古屋城内の東照宮での舞楽にはじまって、行列を待つ見物客、東照宮から城下末広町の御旅所（市内中区）まで神輿を守護する行列の先頭から最後尾まで、さらに行列につづく群集と、4巻のほとんどが、色鮮やかな絵による描写である。その長さは総丁数で215丁(430ページ)、繋げれば、約78mにおよぶ大絵巻となる大作で、100冊中の最大のハイライトとなっている。

東甫がこの膨大な記録を残した目的が、彼の職務上との関りを持っていたのか、単なる余技によるものであったものか、彼自身の序文も残さず未完の大著となってしまった現在では、その答を出すことはむずかしい。ただ一つ言える事は、彼が文献を写す時、風景や風俗、生物などを描写する時、彼が目ざしたのは、論理の展開や芸術性の追求ではなく、事物の姿を正確に写しとり、記述・描写することではなかったろうか。それだからこそ、現代の我々に近世の尾張の姿を現実のものとして伝え、驚きと感動を与えているのではないだろうか。

〈参考文献〉 市橋鐸『張州雑志解説』(愛知県郷土資料刊行会刊『張州雑志』第一巻)
服部徳次郎・市橋鐸・織茂三郎『張州雑志余録』No.1～6(同刊)



『東照宮御祭礼神幸行粧之図』（「張州雑志」巻二十）

「張州雑誌展」出品目録 I

- 〈巻三〉 1 横須賀行殿之図
 〈巻五〉 2 野大根 (森村)
 〈巻六〉 3 小倉村より大野を見るの図 (小倉村)
 〈巻七〉 4 正住院南眺望の図 (北条村)
 〈巻八〉 5 甕竈之図 (常滑村)
 6 田上薬師 (柿並村)
 〈巻九〉 7 檜ツバキ (広目村土産)
 〈巻十〉 8 箱根草 (岩屋寺村産物)
 〈巻十一〉 9 須佐入江之図 (須佐村)
 〈巻十二〉 10 師崎眺望の図
 11 鯨捕之図 (師崎)
 〈巻十三〉 12 乃世 (知多郡産物)
 13 葦鴨 (同)
 14 サキ鴨 (同)
 〈巻十四〉 15 筋カレイ / 蝶々魚 (同)
 16 ズンドスルメ / 目白鰻鰻 (同)
 17 江戸魚 (同)
 〈巻十五〉 18 正月五日の神事
 (日間賀島村八幡宮)
 〈巻二十〉 19 舞楽 (東照宮御祭礼)
 20 神幸行粧之図 1 (同)
 〈巻二十一〉 21 神幸行粧之図 2 (同)
 〈巻二十二〉 22 神幸行粧之図 3 (同)
 〈巻二十三〉 23 神幸行粧之図 4 (同)
 〈巻二十五〉 24 熱田湊之図



- 〈巻二十六〉 25 熱田郷総図
 〈巻二十七〉 26 十団子 (熱田土産)
 27 虎河豚/ウバ河豚/シホサイ河豚 (熱田産物)
 28 キメエイ (同)
 29 メクラハゼ / 蟹 (同)
 30 狸々蟹 (同)
 〈巻三十一〉 31 熱田大宮封境の図
 32 大石燈籠 (熱田大宮)
 〈巻三十七〉 33 明和九壬辰祀七月二十九日大宮仮
 遷宮供奉之図
 〈巻四十一〉 34 弘法大師葎 (八剎宮神宝)
 〈巻五十〉 35 源太夫の御前千罪の枚 (熱田宮年中行事)
 36 初市 (同)
 〈巻五十一〉 37 印地打 (同)
 〈巻五十二〉 38 天王祭 (同)
 〈巻五十三〉 39 神宝虫干図古画 (同)
 40 神輿遊行図 (同)
 41 十二月の市 (町々年中行事)
 〈巻五十八〉 42 雛人形 (熱田加藤家先祖伝来之品々)
 43 御朱印改役江崎清左衛門第宅の図
 〈巻六十二〉 44 鼻長仮面 (真清探挑集)

- 〈巻六十四〉 45 牛頭天王社之図 (藤島私記)
 46 津島神島之図 (同)
 〈巻七十一〉 47 晦夜由貴供祭 (津島社年中行事)
 48 神輿神幸之図 (同)
 〈巻七十二〉 49 宵祭 (同)
 50 朝祭之図 (同)
 〈巻七十三〉 51 津島市
 52 庭神楽 (津島社僧年中行事)
 〈巻七十五〉 53 市神の祭 (津島町中堂社年中行事)
 高砂 / 唐子遊 / 湯立神子
 〈巻七十六〉 54 縄を指し鳥を捕図 (津島村)
 〈巻七十九〉 55 早桃 (津島産物)
 56 桜鯉 (同)
 〈巻八十〉 57 三千六僧房古図 (鳳凰山甚目寺)
 58 正月三日年中行事 (同)
 〈巻八十一〉 59 境内之図 (同)
 60 唐仏金銅陽柳観音之像 (同)
 61 甘露松 (同)
 〈巻九十一〉 62 柿実 (赤津村産物)
 63 瀬戸村図
 64 瀬戸風景
 65 陶器製作之図 (瀬戸村)
 66 ホウス (同)
 〈巻九十三〉 67 嗣信木像 / 忠信木像
 (大森村仏日山法輪寺)
 〈巻九十五〉 68 水野三郷洞之図 (上水野村)
 69 紅葉 (上水野村東国山)
 70 水野山谷景 (中水野村)
 〈巻九十七〉 71 子規草
 72 エビ子
 73 雲実



- 〈巻九十八〉 74 羅摩
 75 ザイフリ木
 76 リャウボウ
 77 ノリノ木 / 山帽子
 〈巻九十九〉 78 大虫喰
 79 雪ヒタキ / 入内雀
 80 キロク鳥
 〈巻百〉 81 ヒミズ

「張州雜志展」出品目録 Ⅱ

〈風俗〉

- | | |
|------------------------|------|
| 1 虫供養之図(知多郡西浦十四ヶ村) | 卷一 |
| 2 廻り地藏(白沢村) | 卷四 |
| 3 神幸行粧之図1(東照宮御祭礼) | 卷二十 |
| 4 神幸行粧之図2(同) | 卷二十一 |
| 5 神幸行粧之図3(同) | 卷二十二 |
| 6 神幸行粧之図4(同) | 卷二十三 |
| 7 踏歌神事 卯杖舞・翁舞(熱田宮年中行事) | 卷五十 |
| 8 御煤納図(同) | 卷五十三 |
| 9 太々神楽図(同) | 同 |
| 10 春県神事(津島社年中行事) | 卷七十 |
| 11 東堤立烈供奉之図(同) | 卷七十一 |
| 12 宵祭(同) | 卷七十二 |
| 13 朝祭之図(同) | 同 |
| 14 御葦船(津島御葦放神事) | 卷七十三 |
| 15 神葦津島に着岸の時船祈祷之図(同) | 同 |
| 16 金燈籠社祭礼(津島町中堂社年中行事) | 卷七十五 |
| 17 享禄年中熱田古図 | 卷三十九 |
| 18 馬の頭古画(熱田宮年中行事) | 卷五十二 |
| 19 津島神社祭礼古図(真清探桃集) | 卷六十三 |
| 20 鯨捕之図(師崎) | 卷十二 |
| 21 農家の土間(上水野村) | 卷九十五 |

〈風景〉

- | | |
|-------------------|------|
| 22 西端村 | 卷十 |
| 23 岩屋観音奥の院図(岩屋寺村) | 同 |
| 24 亀崎図(亀崎村) | 卷十六 |
| 25 須賀浦之図(熱田) | 卷二十六 |
| 26 上知我麻社図 | 卷三十二 |
| 27 古跡之図(津島村) | 卷七十六 |
| 28 浄源寺之図(中品野村) | 卷九十一 |
| 29 雲興寺山内の図(赤津村) | 同 |
| 30 琵琶島河大橋(枇杷島村) | 卷九十二 |
| 31 止水庵(荒居村) | 卷九十三 |
| 32 定光寺山内の図 | 卷九十六 |

〈生物〉

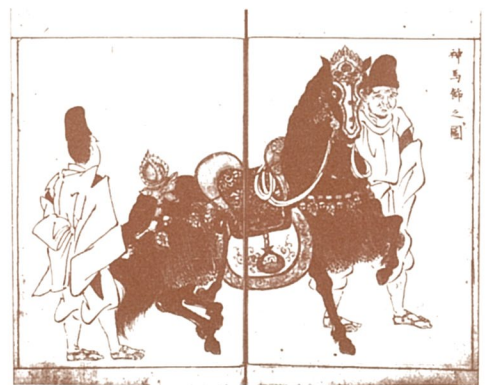
- | | |
|--------------------|------|
| 33 山藤(東大高村) | 卷十一 |
| 34 鹹草之花/浜防風(篠島村産物) | 卷十五 |
| 35 菟糸子(春日井郡六師村) | 卷八十九 |
| 36 岩千鳥 | 卷九十七 |
| 37 薺荔花 | 卷九十七 |
| 38 龍胆花 | 同 |
| 39 ホウノ木の実 | 卷九十一 |
| 40 菌類 | 同 |
| 41 栄螺(須佐村産物) | 卷十一 |
| 42 鏡魚(知多郡産物) | 卷十四 |
| 43 異魚(同) | 同 |
| 44 マメ蟹(篠島村産物) | 卷十五 |
| 45 カザミ(熱田産物) | 卷二十七 |
| 46 ヤマソ(同) | 同 |
| 47 田打蟹/恵比須蟹/豆蟹(同) | 同 |
| 48 海鼠巢/水海月(同) | 同 |
| 49 朝鮮鴨(知多郡産物) | 卷十三 |
| 50 カヅラアイサ(同) | 同 |

- | | |
|-----------------|------|
| 51 川アイサ(同) | 同 |
| 52 サンカノ五位(熱田産物) | 卷二十七 |
| 53 カハカラス/啄木鳥 | 卷九十九 |
| 54 翡翠 | 同 |
| 55 大虫喰 | 同 |
| 56 猫 | 卷百 |
| 57 水獺 | 同 |



〈宝物〉

- | | |
|-----------------------|-----|
| 58 耆婆の像(巖松山東龍寺) | 卷七 |
| 59 義朝最期並頼朝当寺建立供養之図二幅対 | 卷八 |
| (野間大坊) | 同 |
| 60 鳳替御莊之図(熱田宮神宝) | 卷四十 |
| 61 惣之市の図(同) | 同 |
| 62 神馬飾之図(同) | 同 |



- | | |
|-----------------------|------|
| 63 一遍上人網衣/伝小野小町作地藏菩薩像 | 卷五十五 |
| (亀井山門福寺) | 同 |
| 64 土佐光信筆尊氏之像(金宝山地藏院) | 同 |
| 65 伎楽面(真清田探桃集) | 卷六十二 |
| 66 弁才天(長島山妙興寺宝物) | 卷八十三 |
| 67 秀吉像(同) | 同 |
| 68 妙興寺宝物古証文一 | 卷八十五 |
| 69 妙興報恩禪寺什物古証文二 | 卷八十六 |

〈その他〉

- | | |
|----------------|----|
| 70 忠女夏(古見村) | 卷五 |
| 71 懸針(朝倉村) | 同 |
| 72 蛸魚釣鉤之図(大野村) | 卷七 |

蓬左文庫の蔵書印

その22. 奥村得義
元 僑

織 茂 三 郎

江戸時代の初め、徳川家康の命によって築かれた名古屋城は、代表的な平城として、また、天守閣上に置かれた金鯢などによって名高いが、その沿革や構造などについて、百科全書的な図説を加えたものが「全城温古録」（六十五巻）、その著者が今回とりあげた奥村得義（徳義）である。奥村は、「御城掃除中間頭」（十二石三人扶持、一人扶持は現米一日に五合宛）という軽士にすぎなかったが、その役職を利して、名古屋城の総合的な調査をこころざし、完成までには、およそ四十年を要した

といわれる。その内容については「名古屋叢書続編」（昭和43年「全城温古録」翻刻本、全四巻）にくわしいが、天守編・本丸編から二之丸・三之丸・御深井御庭などの諸編に凡例・拾遺の両編を加え、全十編にまとめられている。これに対して、藩は、米一石の加増と御代敷御用達格への昇格にとどまった。この間、本務である諸職を続けたことはいうまでもなく、多額にのぼる費用も、書道を教えてこれを得たといわれる。

さて、得（徳）義には、そのほか「松濤棹筆」（松濤居はその号）のように、八十五巻にもものぼる随筆・雑纂のほか数百点の蔵書があり、本文庫には「奥村徳義旧蔵書」として、まとめられており、尾張藩に関する重要な史料群のひとつとなっている。なお「全城温古録」は、幕末における代表的な儒学者のひとりで、藩学明倫堂の教授などを勤めた細野要斎なども親しく、「温古録」はその厳密な校閲をえている。要斎はまた「全城温古録」の名付け親でもあり、「温古録」の元名「鶴城亀目俚諺集」を現在のように改めたが、これにまさる題名は、ほかに見あたらずともおもわれる。

ところで、徳義の祖父元僑については、細野要斎の随筆「感興漫筆」および「名古屋叢書続編」第13巻の解説のほかには詳かでないが、それによれば、元僑の代に加納より尾張藩に出仕し、御城御掃除中間頭に取りたてられた。また、歴史・故実・文学等に詳しく、藩の重臣下条正員より「松濤」の石印を貰って号としたという。得義の号「松濤居」も祖父の号を受けついでものである。

ここに収載したのは、得義の印記三種および元僑の印記四種で、得義の印は「松濤居」（縦29mm横15mm）「松濤居図書印」（縦29mm横21mm、縦30mm横18mm）、元僑のそれは「好古亭」（縦29mm横15mm）「臣元僑」（縦横20mm）および「元僑」「李道」（各縦12mm横15mm）の印である。（元僑の字は「季道」とされているが、印文では「李道」と読める。）「元僑」と「李道」とは、ほぼ相等しく並べて捺されている。（元名古屋市蓬左文庫調査研究員）



出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S. 50年刊)	3,500円	名古屋叢書三編第12巻(S. 56年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S. 51年刊)	4,000円	同 第8巻(S. 57年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円	同 第16巻(同)	3,000円
尾崎久弥コレクション目録第一～三集 (S. 52～55年刊) 各	1,500円	同 第19巻(同)	3,000円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S. 53年刊)	2,000円	同 第17巻(S. 58年刊)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S. 47年刊)	700円	同 第4巻(S. 59年刊)	3,000円
名古屋叢書続編総目録(S. 44年刊)	400円	同 第9巻(S. 60年刊)	3,000円
善本解題図録第一～三集(S. 55年再版)	各 300円	同 第11巻(同)	3,000円
日本の古典<蓬左文庫図録>(S. 52年刊)	200円	同 第18巻(1)(同)	3,000円
蓬左文庫・源氏物語図録(S. 53年刊)	300円	同 第18巻(2)(同)	3,000円
蓬左文庫所蔵古地図複製 No.1～No.15(S. 55～61年刊) 各	1,800円	同 第15巻(S. 61年刊)	3,000円
御本印型書鎮(S. 58年製)	1,000円	同 第14巻 一金明録(同)	3,000円
堀田文庫蔵書目録(S. 58年刊)	500円	同 第10巻 一松濤棹筆(抄) 下(同)	3,000円
蓬左文庫絵葉書<8枚組>(同)	300円	同 第2巻 一尾藩世記 上(近刊)	3,000円
蓬左文庫図録(同)	1,500円		

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

利用ご案内

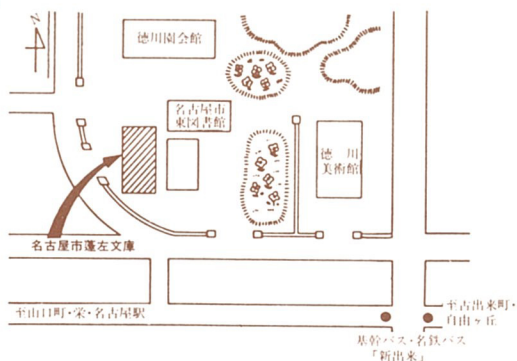
- ▷開館時間 午前9時30分～午後5時
- ▷休館日 毎月曜日・第3金曜日(館内整理日)
- 祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 " 月・火休館
- 年末年始(12月28日～1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部350円)
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(名古屋駅から) 市バス(基2)「自由ヶ丘」「猪高車庫」行
名鉄バス「本地ヶ原方面」行
(栄から) 市バス(基2)「引山」「自由ヶ丘」
「猪高車庫」行
「新出来」下車、徒歩4分



「蓬左」第30号 ☆昭和62年4月11日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)
☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)